

令和 7 年度第 1 回唐津市男女共同参画推進協議会 会議概要

1 開催日時

令和 7 年 7 月 29 日（火） 10:00～11:55

2 開催場所

唐津市役所 大手口別館 5 階 会議室

3 出席者

上野委員、礎委員、岩本委員、浦田委員、大藺委員、川崎委員、小出委員、
小峰委員、角委員、田坂委員、中村委員、古川委員 [12 名]

4 欠席者

加茂委員、田代委員、吉村委員 [3 名]

5 事務局

男女共同参画室 岩橋室長、小宮

6 傍聴者

0 人

7 会議次第

(1) 開会

(2) 地域づくり部長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 議事

① 唐津市男女共同参画基本計画（第 4 次）令和 6 年度の実施状況について

② 令和 6 年度唐津市審議会等委員に占める女性の割合について

③ 令和 7 年度女性活躍推進事業、他事務事業等について

(5) その他

(6) 閉会

【会議概要】

1 意見等の概要

会長	唐津市男女共同参画基本計画（第4次）令和6年度の実施状況について説明依頼
事務局	議題①②について説明
会長	基本計画の実施状況についてお気づきの点があればご意見を。
委員	単純な質問だが、5次計画の目標値が4次計画の目標値よりも下がっているところがあるが、なぜか。
事務局	コロナ禍などもあり、第4次計画に基づく取り組みが目標に及ばなかった。第4次計画策定時から5年間の推移なども精査し、努力により実現可能な数値を目標値とした。
委員	「男女共同参画社会」の認知度は100%を目指した方がよいのではないか。
会長	今は修正できないところ。計画段階でもう少し議論すればよかったかもしれないが。関連でも他でも、ご意見をいただければ。
委員	質問ではないが、担当部署により自己評価が厳しいところ、甘いところがあるような気がする。
事務局	担当課へ聞き取りをしたが、「取り組みに課題があった」、「満足していない」というところは、確かに辛めになっているかもしれない。今後、評価方法の統一を図るよう話をしていきたい。
委員	「教育の現場で男女共同参画に関わる研修機会を多く設けている」とありますが、どのような研修をされているか。
事務局	主に学校教育課の方が担当して事業を行っているが、国・県の通知に基づく各学校への周知徹底や、研修素材を学校に提供するなどして研修が行われている。
委員	農政課の取組で、国から直接市民に情報が行くので、市が関わっていないというものは、役割分担として、市がそこに入ってくるのは難しいと思う。例えば情報共有ということであれば、県から市にも声をかけてもらったり、結果だけでも把握して市でも整理しておけば評価が2ではなく、3とかになるのではないか。5次計画策定時に目標の書き方を少し考えればよかったのだが、何か工夫できないかなと思う。 もう一つ、生涯を通じた心身の健康支援とか健康診断の受診者は、令和6年度の実績値が下がっているが、原課で、来年は頑張ろうと対応されるということでよいか。
事務局	原課の評価が出た時点で、また来年度以降の取組についてはお願いするというような形。
会長	今の1点目の指摘だが、国から直で行くから市は関われないという理解はできなくはないが、それを5年間ほったらかしていたのかという話にもなる。庁内の各部署間での連携ができていないという自己評価だが実際はどうだったのか。
事務局	担当部署が自分から取りに行こうとすれば、得られる情報だったかもしれないが、本業で手一杯で難しいのが実際のところ。男女側としても、情報が入りやすい部署だが、それを他部署に連携までは至っていなかった。今後はホームページ等を活用し、例えば女性の方で検索をしても農業関係の就労ページに飛ぶように

	等、多方面からアクセスできるような発信の仕方を実施しているところ。
委員	例えば県だと農政とか水産の事業の枠に女性農業者支援の担当者がいる。市の方もそういう枠があれば、原課で自覚をもって実施できるのでは。唐津市は、女性に関することは全部男女でやるとなると、いろんな分野にまたがるからきついと思う。農政の中に女性活躍推進の担当を1人でなく 0.2 人とかでもよいから置き、トップダウンでやってもらおうと仕事の責任がどこにあるかが明確になるのでは。年1回の調査で男女の話が突然来て、「やっていない」となっているのではないかと心配で申し上げた。
会長	R2～5の評価点が64点で、R6が65点だった。基本目標の評価点を見てウィークポイントを探り出して手だてを議論いただきたい。特徴的なところで、市役所の取組強化の点数が上がったのはどういう理由か。
事務局	主に男性の育児休業の取得率の増加が要因と思う。
会長	若い男性、夫婦の意識がだいぶ変わってきたということが分かるが、地域防災は頑張っていたが54点。
事務局	地域の防災セミナーなど積極的に取り組みを進めているが、実際に女性が消防団に入っていないため点数が伸びにくい。
委員	男性の消防団員も減っている。女性は、避難した場合の応援はできるが、消防団員というのはちょっと難しいと思う。
会長	ご指摘のように、消防団員自体が減っている。その手だてを講ずることが課題。職場における男女共同参画の点数が55点から50点に減ったのはどういう理由か。
事務局	農林水産と同じような形で、国から直接、市内企業に情報が流れるので市で情報を掴めていない部分が多く、情報発信が十分にできていない。
委員	うちも国・県からいろんな情報が来るが、市と同じで企業に直接行く分もあるので、情報を取捨選択し、必要に応じ配信しているが、確かにすみ分けが難しいところがある。
委員	農業分野では、国・県から女性活躍推進のためにヒアリングに見えるが、農業委員会の委員も現場を知らないと務まらない。どちらかというと女性は中で支えるような役割が多く、肉体労働をしているのが男性なので難しいが、国・県が動いてあるのは感じている。
会長	農業委員の職務内容が女性にとって無理なものなのか。
委員	私も詳しくはないが、県が、できる部分を女性にさせていただいたらよいかという提案をしていたが、現実には地域性もあり、各地区に仕事をする人がいて、そこだけ弱くなるわけにはいかないと。
会長	他市では、自治会長と水門の管理、農業委員がワンセットで仕事があり、女性には難しいという話がある。農業は個人経営なので、妻の労働力も必ずあるが、女性の声が農業施策に反映されるような仕組みを作っていないと、この分野での男女共同参画が進まないと思う。職務内容で女性委員の登用が難しくなっているというところを申し上げていかないと、1歩も進まないと思う。

	関連で、他にも点数が低いところがあったが、自己評価が辛すぎるのではないかというご指摘もあった。 数値目標があれば自己評価しやすいが、抽象的な目標は、やればやるほど課題が見えて、自己評価が低くなる傾向が出るのは仕方ない部分もあると思うが。
委員	そういう風に感じる。何か事業をやったことに満足して高得点をつけているところと、やったが課題が見えたので、もっと良いものにするために考える必要があると評価したパターンと。
会長	それでは、女性委員の登用状況について。 昨年度よりは少し増えたが、女性委員が0の審議会が依然として減らない。
事務局	女性委員の推薦依頼をしているが、なかなか難しいという理由が目につく。
委員	委員さんの要件が、あて職とか、唐津市の人限定とかか。
事務局	あとは、専門性が高いとか、その職にある人が少ないとか。
会長	従来の枠の中で考えてしまうと、女性が入り込む余地がない。母数が少ない審議会は難しいとは思いますが。小児医療対策委員会は医師で構成するようになっているのか。
事務局	周産期医療だが、医師もいるし、県職員・市職員も構成員になっている。医療関係者というくくりになっているので、看護師さんとかも入ると思う。
会長	周産期医療でも小児医療でも、男女課の合議の前に何とか工夫をする必要があるのではないかと。母数が少ない審議会は厳しいかもしれないが、5人以上の審議会は1人くらい入れてもらうことを考えていかないと、周産期医療で女性委員がいないなんていうことが考えられるかという話。それで、対面を前提にするから市内の人となるが、リモート会議をやれば東京からでもどこからでも委員を選任できる。そういった工夫をしないと0%の審議会は減らない。
委員	私も県の部会など、結構リモートで参加させてもらい助かっている。なので対象を広げてみるのは、ありだと思う。
会長	枠を増やして女性枠を入れるとか、女性がいるところにあて職を充てるとか、近くに女性候補者がいなければ、広く国内を探してみるとか。リモート会議であれば可能性は出てくる。
委員	女性の弁護士は少ないが、弁護士会の女性委員は1割ほど。人数が少なくても執行部に絶対女性を入れるという気持ちをみんなで作っている。女性が入ることによる影響は結構大きいと思うので、数が少なくてもそういう風に思っただけならと思う。
会長	第5次計画の中にジェンダーバランスのことは書き込んでいなかったような気がするが、いろんなレベルでジェンダーバランスに配慮するようなことで取り組んでいただければと思う。
会長	令和7年度女性活躍推進事業、他事業について説明依頼
事務局	議題③について説明
会長	まずは、地域女性活躍推進交付金についてのご意見を。
委員	女性の学び直しのデジタル講座というのは、昨年パソコンを使っ

	て講座をされたものと同じような講座になるのか。また、対象者は唐津市の女性か。去年と同じ人が受けてもよいのか。去年受けた人のその後の動向を把握されているか。
事務局	去年と同じようにパソコンを使った講座で、内容はまだはっきり決まっていないが、昨年とは少し違う内容になると思う。対象は唐津市の女性。昨年度の受講者は定員以上にあったが、再就職の状況や、講座の内容を活かされているかの把握はできていない。
委員	防災の方は、評価点は低めだったが、県内一くらい男女共同参画の視点を入れてあると思う。防災の職員も男女の視点を取り入れた防災講座を熱心に受講されている。防災リーダー養成講座の交付金申請が不採択になったのは残念だが、取り組みはされることなので、多くの方が受講されるよう広めていただきたい。発信はされていると思うが、もっと市民に伝わるように。市でユーチューブチャンネルも持っているので動画作成もよいのでは。
委員	職種柄、デジタル講座の受講内容を利用する機会は少ないと感じているが、防災については、会社で BCP（「事業継続計画」：企業が災害などの緊急事態に遭遇した場合に、損害を最小限に抑えつつ、事業の継続や早期復旧を目指すための計画）を作っている。それを作るにあたり、市からの情報などを盛り込みながら作成したりしていて、そこらへんは充実していると感じている。
会長	地方創生 2. 0 の取組について
会長	予算はどうなっているのか。
事務局	昨年度末に募集があって、今年度予算編成後に応募をしたので予算はなく、既存の予算の中でできるものを検討している。
会長	何をされるかがよく見えないが、それであれば、こども・若者に選ばれない。若い世代の動きはどうなっているか。
委員	出生率の低下は顕著。保護者の中には福岡に通勤する方も多数おられる（特に鏡・浜崎方面の方）。市外の大学などで勉強して、唐津で働きたいから戻ってきたという話も聞いたことがあるので、こどもたちに「この町がいい」というのを伝えていければと思う。
会長	市内在住、福岡在勤の方が一定数おられるということ。
委員	市内勤務の方が多いが、おられる。市の東部はもっと多いかもしれない。
委員	東部の鏡山小学校は県内 1、浜崎小学校は市内で 2 番目に児童数が多い。
会長	唐津市にとっては、喜ばしいこと。子育てしやすい街ということで選ばれると思うが、保育士は足りないのでは。
委員	確実に足りない。保育士になりたいという生徒が少ない。こどもが少ないというのものもあるが、先生も足りない。
会長	他市では、高校に保育コースを作り、短大で保育士資格を取らせて附属の園に採用するという話をよく聞く。そうしないと、保育士が確保できず、全国的には閉園の事例もある。子育てしやすいということで選んでもらうためにも、そこを支える部分に持続性を持たせる手立てが必要と考える。

委員	市内では幼稚園が減って、ほとんどが保育園を兼ねた認定こども園になっている。本当は小さいときは保護者と過ごした方がいいのだが、そういう状況でもないので、小さいときから男女分け隔てなく男女参画の方向性にもっていけるといいなと考えている。
会長	保育や教育の話は、全体としてどういう未来像を描くかというところと関わってくると思う。教育を良くしたいというときは保育士や教員養成をどうするかとワンパッケージで考えていかないと、若者に選ばれるまちにはなかなかならないかなと。地方創生2.0は次年度以降も取りに行くのか。
事務局	少なくとも令和11年度までは。
会長	今年は予算がなく勉強するということだが、勉強した成果を何かに生かす手立てが必要と思う。
会長	新しい事務事業名について
会長	基本法ができた頃は、この「女・男（ひと・ひと）」という呼び方が新鮮に受け止められていたが、25年も経つとLGBTQのことを考えていないようにも思われ、新しい事業名にしようということ。
委員	アンケート等で「男女」と使わないでほしいというような意見が来ることもある。男女共同参画フォーラムを、ジェンダー平等フォーラムと変えているところもあるので、「ジェンダー」に変えたらいいと思う。
会長	「ジェンダー平等」は「ジェンダーイコリティ」の訳だと思うので、SDGsにも合致しているが、日本の法律である「男女共同参画基本法」に基づくと、「男女共同参画」という言葉を出さざるをえないか。条例はどのようになっているか。
事務局	唐津市は条例を制定していない。
会長	毎年事業名を変えるのではなく、例えば「ジェンダー平等推進事業」と名称を変えて、今後は一貫してそれを使うという提案か。これまで「女・男（ひと・ひと）輝き事業費」だったのか。
事務局	はい。平成20年から17年ほど同じ事業名。
会長	特に異論がなければ、今後は「ジェンダー平等推進事業」で統一して進めさせていただきたい。
会長	その他で何かないか。
委員	防災の分野で唐津市がすごく頑張っていることを全然知らなかった。もっと見えるようにするために、思いつきで申し訳ないが、表彰制度を設け、毎年1団体くらい、担当の独断と偏見でいいと思うので、頑張ったなという団体を市役所の部署でも表彰しては。そうするとわかりやすくなるような気がする。
会長	防災に限らず、ジェンダー平等に貢献した●年度の個人、団体、組織、学校など、ささやかな取組でもこの委員会で点数化し、決定して、それをピープルに延々と流す。 委員の方々に、一押しをこの場で出してもらおうという手もあると思う。この推進協議会が勝手に表彰とか。
委員	学校では、啓発の教材等を提供いただけると教育に取り入れていけるし、文科省からの指示が来れば絶対にすると思う。

会長	高校だったら、探求の時間に取り組んだということを集めて、勝手に表彰なので何団体でも構わない。学校義務制だったら先生を表彰ということもあるだろう。ということを考えていただくということで、今日の議題は終了したい。
会長	議事については終了。会の進行を事務局に戻す。
事務局	いただいたご意見は後日ホームページで公表させていただき、今後の事務事業にも反映させるように取り組んでいきたい。
会長	次回予定は。
事務局	未定。